

第 3 期高知県産業振興計画の総括（案）

《各分野における主な取り組みと成果》

■ 農業分野

高収量を実現する最先端の「次世代型こうち新施設園芸システム」の普及が進む。また、中山間地域の農業を支える集落営農組織や中山間農業複合経営拠点の整備を推進。

高齢化の進行等により農家戸数や耕地面積が減少する中でも、農業産出額等は大幅に増加し、目標の 1,060 億円を達成。

▽ 農業産出額等の推移（単位：億円） H20→H30 +14.7%

H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
1,026	963	930	962	973	940	965
H27	H28	H29	H30			
1,018	1,152	1,201	1,177			

[生産力の向上と高付加価値化による産地の強化]

○環境制御技術に最先端のデジタル技術を融合させた Next 次世代型の開発プロジェクトを開始

▶63 の研究テーマに 100 名超の研究者が参画、研究成果の産業化に向けて 49 社が参画

▶出荷予測システム、環境データ一元化システムを開発し、運用開始

○環境制御等の先進技術を本県の気候・風土に合わせて改良・確立

▶環境制御技術導入面積 H22:17.6ha → H27:72.6ha → R 元:356.9ha

▶次世代型ハウス整備面積 H27:12.6ha → R 元:59.6ha

○学び教えあう場の活用による環境制御技術等の普及

▶設置箇所 H20:123 箇所 → H27:207 箇所 → H30:230 箇所

○地元との協働による企業の農業参入の促進

▶新たに農業参入した企業 H27:— → R 元:8 社

○土佐あかうしの増頭対策の強化

▶飼養頭数 H24:1,720 頭 → H27:1,810 頭 → R 元:2,406 頭

[中山間地域の農業を支える仕組みの再構築]

○中山間地域の農業を支える組織づくりを県内全域で展開

▶集落営農法人数 H20:— → H27:16 組織 → R 元:33 組織

▶中山間農業複合経営拠点数 H27:4 拠点 → R 元:21 拠点

▶事業戦略策定数 集落営農法人 22、複合経営拠点 18 (H29~R 元累計)

[流通・販売の支援強化]

○パートナー量販店（関東・関西 8 社）との連携による販促

▶パートナー量販店での高知青果フェア開催回数 H23:53 回 → H27:110 回 → R 元:71 回

○卸売会社と連携した業務需要の拡大

▶売上額 H28:2.2億円 → R元:11.5億円

○商談会等による生産者と飲食店の実需者とのこだわりをマッチング

▶成約件数 H28:25件 → R元:29件

○「(株)とさのさと」(H31.4開設)を活用した地産外商の強化

▶大規模直販所への出荷者数 H31.4月:800人 → R2.3月:1,384人

○生産から販売までの関係者が一体となった輸出の促進

▶卸売会社への業務委託により輸出に取り組む品目数 H29:14品目 → R元:32品目

[生産を支える担い手の確保・育成]

○産地提案型担い手確保対策の強化

▶産地提案書の作成数:32市町村 79提案書 (R元)

○PRから相談、技術習得など段階に応じた支援による新規就農者の確保

▶新規就農者数 H20:114人 → H27:269人 → R元:261人

○法人経営体の育成

▶農業法人数 H27:155法人 → R元:219法人

○農地中間管理機構を活用した担い手への農地集積の加速化

▶担い手への貸付:971件 668ha (H26~R元の累計)

▶担い手への農地集積率 H20:22.9% → H27:21.4% → R元:32.1%

《さらなる挑戦》

□施設園芸農業の飛躍的発展と施設園芸関連産業群の創出・集積

- ・Next次世代型こうち新施設園芸の普及推進
- ・集落営農組織等の法人化の推進と経営発展への支援
- ・「園芸王国高知」を支える市場流通のさらなる発展

□担い手の確保・育成策の抜本強化

- ・産地での担い手確保に向けた取り組みの強化
- ・JA無料職業紹介所と連携した労働力の確保
- ・基盤整備の推進

《第4期計画における4年後の目標》

○農業産出額等:1,221億円以上

○農業生産量 野菜(主要11品目):13.6万トン以上

果樹(主要2品目):2.45万トン以上

花き(主要3品目):2,020万本以上

畜産(土佐あかうし飼育頭数):3,725頭以上

■ 連携テーマ（地域産業クラスターの形成）

地域に根差した産業を核としたクラスターを生み出すためのプロジェクトを推進し、産業の集積を推進

核となる一次産業の生産拡大は概ね順調に進捗しており、その効果が二次・三次産業にも波及するなど、着実に成果が出ている

[農業分野]

○四万十次世代モデルプロジェクト

四万十町次世代団地におけるトマト出荷量は順調に伸びており、今後は、事業者の経営安定化に向けた病害防除対策の確立やさらなる作業効率の向上に取り組む。また、トマト加工品が開発され、ふるさと納税返礼品等で展開されており、今後ともさらなる認知度向上と販路拡大に取り組む。

○日高村トマト産地拡大プロジェクト

企業の新規参入などにより、日高村本郷にトマトの次世代施設団地が形成され、集出荷場の整備もあって、出荷量は増加しており、今後は、参入企業等の経営安定や労働力の確保に取り組む。また、トマト加工品の開発及び販売拡大やオムライス街道の取り組みが順調に進んでおり、今後は、交流拠点施設による交流人口の拡大や移住促進にも取り組む。

○日本一のナス産地拡大プロジェクト

次世代型ハウスの整備や既存ハウスへの環境制御技術の導入推進等により生産拡大を図っており、今後は、病害対策や環境制御技術のさらなる普及、新規就農者の確保等に取り組む。また、ナスの料理メニューや加工品の開発を進めるとともに、ナスの機能性表示の活用や情報発信の充実などにより、さらなる青果や加工品の販売拡大に取り組む。

○宿毛市イチゴ・柑橘成長プロジェクト

一次から三次の各産業分野の事業者が連携した取り組みが始まり、今後、園地の整備や担い手確保等による生産拡大を核に、加工・観光事業者等との連携強化による二次・三次産業分野への展開が期待される。